

## 七月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

今日から1年の折り返しとなる7月に入りました。梅雨の晴れ間の夕暮れ時に、西の空に目をやりますとゆっくりと日が沈み、紅碧に染まる空の美しさに、心引かれる季節でもあります。

先般、私共は、極めて意義深き本年の「地上天国祭」を、例年にも増して多くの皆さまと共に執り行わせていただき、明主様に対しまして「メシヤの御神」という御神名を教団史上初めて奉称させていただきましたこと、あらためて全国の皆さまと共に心からの感謝と歓喜をもってお慶び申し上げたいと存じます。

私は、日々「メシヤの御神」を奉称させていただくたびに、「メシヤ降誕」のご事蹟に結ばれたものとして、「メシアの御名」に込められた人類最大の福音である「主神の赦し」が全てに及んでいるという事実を、少しでもお受けさせていただきたいと、次第にその思いを強くしていただいております。

同時に、私は、神様が、その赦しをもって至らない私を天国に迎え入れてくださっていることの喜びと申し訳なさりと畏れ多さに、少しでも気付かせていただき、何としてもお応えさせていただきたいと思わせていただいております。

私共は、神様が、こうして私共一人一人の中で、愛と赦しと救いを待ち望む夜の時代を既に終わらせてくださり、大光明の光に満ちあふれた昼の時代に迎え入れてくださっていることを知るものとしていただける、その先駆けの一人としてお仕えさせていただける千載一遇のみ恵みを、少しでも胸に刻ませていただきたいと存じます。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、「祈りの言葉」による「想念の御用」として、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」に取り組む中、奇蹟と感じる出来事の奥に込められた、信仰の本当の目的の一つ気付かせていただいた喜びをご奉告くださいました。

私は、感謝奉告を聞かせていただき、「祈りの言葉」が掲載された配布用「真善美」の一部一部にも、神様の計り知れない大きなみ心が込められているのだと、今あらためて自らに確認させていただきました。

私は、そのみ心は、神様が全てのもののうちに実在され、全てに光が届き、

どんな時も神様が現れてくださっていると信じる心を養ってくださるみ心、つまり、全てに“主神の赦し、が及んでいることに気付かせてくださるみ心なのではないかと思わせていただいております。

私は、このようにして、⑤之光教団がなぜ「真善美」配布を大切なご神業奉仕としているのかについて、もう一度自らに問い掛け直してみる大切な学びの機会とさせていただきます。

さて、「大光明」のご神体を全国全ての布教所にお許しいただき、その上、「メシヤの御神」の御神名を奉称させていただくことをお許しいただいた今、私はもう一度、“今、自らの拠って立たせていただいている所、にしっかりと思いを至し進ませさせていただくことが、極めて大切なのではないかと思わせていただいております。

先般の「教主様ご巡教」（京都・滋賀布教区信徒大会）において、教主様は、

主神は、私どもを世にお遣わしになる前の天国において、ご自身の子たるメシアを生むという創造のみ旨をもって、分霊わけみたまと呼ばれる私どもの霊からだの体をお生みになりました。

私どもは、主神の子となるために、すでに天国において、メシアの御名みなに結ばれていたのです。

主神は、そのメシアの御名に結ばれた私どもを世にお遣わしになり、一人ひとりの自我意識をお創りになって、そこから発する思いをもって天国に立ち返らせて新しく生まれさせ、主神ご自身の子となさろうとしておられます。

すなわち、地上に遣わした私どもを再び天国に迎え入れて、ご自身の永遠の命を授け、その天国で私どもと共に住んでくださろうとしておられます。

と、このようにご教導くださいました。

私は、明主様のみ教えの神髄をご教導くださる教主様を通して、自分自身の本当の出発点は「始まりの天国」であることを知るものとしていただきました。私は、自らがどこから来たのかを知ることができました。

さらに、私は、明主様が「メシアが生まれた」「新しく生まれる」というお言葉をもって最終的にお示しく下さいましたように、人類をご自身の子供たるメシアとして新しく生まれさせてくださるといふ、“主神のご存在とそ

のみ旨、を知るものとしていただきました。私は、自らがどこへ帰らせていただくのかを知ることができました。

世の中には「悲喜交々」という言葉がありますが、私共は日常生活においてさまざまな問題に苛まれます。その中で、私共は悩んだり、不安になったり、イライラしたり、うまくいったと有頂天になったり、うまくいかなかったと深く沈み込んだりしながら生きています。

そんな私共に対して、教主様は、この世から考えるのではなく、「始まりの天国」から考えるようにと、いつも呼び掛けてくださっているように思えてなりません。

このことは、私にとりましての大転換であります。

ですから、今私は、日常生活のさまざまな事柄に際して、全ては私共をご自身の子供たるメシアとして新しく生まれさせるという神様のみ心から発生しているという思いを、より一層大切にさせていただけるよう、「祈りの言葉」を中心とした「想念の御用」をもって訓練させていただいています。

そうした中で、私は、さまざまな状況に際して、今自分が感じている自分の中心には「始まりの天国」が存在し、大光明の光に包まれて主神の赦しをお受けしている「素晴らしい本当の自分」が存在するという事に、たとえ少しでも心に向けて進ませていただけることに感謝申し上げております。

私は、この大転換をお受けさせていただくことこそが、私にとっての「夜昼転換」なのではないかと受け止めさせていただいています。

私共は、「全てをお生みになり、全てを統轄され、全てをお計らいくださっている神様・主神の方からご覧になられた時、今自分はどこに立たせていただいているのか」という思いをもって、全てを見詰め直してみる訓練をより一層大切にさせていただきます。

また、教主様は、このたびの「ご巡教」の折、

私どもの父母先祖の方々を始めとする全人類は、自らが天国に立ち返って、主神の子として新しく生まれるべき存在であることを忘れ、主神の創造のみ旨をないがしろにして生きてまいりました。

そうした私ども人類を、主神は赦してくださいました。

主神は、私ども一人ひとりの中で夜昼転換を成し遂げられ、主神をないがしろにしていた私どもをメシアの御名みなにあって赦してくださいました。

この最大の福音を、私どもは明主様によって知らされました。

ですから、明主様の信徒である私どもは、この人類最大の福音である主神の赦しを、まず自らが明主様と共に受けし、そのみ恵みを多くの人々

と分かち合い、その喜びを主神に帰す御用にお仕えする務めがあると思います。

私どもは、無条件で赦していただいたのですから、実感があろうとなかろうと、その赦しを無条件でお受けし、無条件で人々と分かち合い、主神をお讃えさせていただく立場なのではないでしょうか。

そして、そのために、主神は私どもを地上にお遣わしになったのではないのでしょうか。

と、このようにお示しく下さいました。

私は、誠に至らない自分が赦されるほどの赦しとは、考えられないほど大きな奇蹟的な赦しなのではないかと思わせていただき、喜びとともに申し訳なさと畏れ多さの一端に、また一つ気付かせていただきました。

私は、「メシアの御名」に込められた主神の赦しというみ恵みをお受けし、多くの人々と分かち合い、その喜びを主神に帰させていただく御用に少しでもお仕えさせていただくことが、「明主様の全く新しい救いの福音」をお受けさせていただくに際して、極めて重要なことなのではないかと思わせていただきました。

ですから、「地上天国祭」の折に申し上げましたように、私は、自らの心に浮かぶ思いについて、「（今心に浮かんでいる）こういう世界から私自身を、赦しをもって救い出してくださったことを、今私に体験させて教えてください、それがどのような思いであったとしても、神様の栄光の現れとして委ねさせていただくことを、より一層大切にさせていただきたいと思います。

同時に、「神様が今、私を（心に浮かんでいる）こういう世界にお遣わしになって、同じ要素を持つ方々の代表として、その方々の思いを私の心に集めて、赦され、救われたものとしてお受け取りくださろうとしているのですね」という心で、やはり神様の栄光の現れとして委ねさせていただき、私に繋がる全てのものを、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、神様にお取り次ぎさせていただく「想念の御用」に、まず私自身が少しでもお仕えさせていただきたいと思わせていただいております。

来月、私共は、熱海「救世会館」において、教主様のご出座を仰ぎ、本年の「世界平和祈願祭・祖霊大祭」を執り行わせていただきます。

私は、私に繋がる全ての存在、先祖、人類、万物と共に、この「明主様の全く新しい救いの福音」をお受けさせていただくことが、私達の世界平和祈

願であり、また、最大の感謝慰霊になるものと固く信じています。

私共は、私共に結ばれた全てのものと共に「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」を奉称し、主神の赦しをお受けして天国に立ち返らせていただき、赦され、救われたものとして全てを委ねさせていただきますという思いを込めて、真心いっぱいの感謝慰霊に努めさせていただきます、一人でも多くの皆さまと共にご参拝に臨ませていただきますよう。

本日も、こうしてご一緒に、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあって、主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、「祖霊大祭」に向けての皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますようお祈り申し上げます。ありがとうございました。